



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第75回「投資資金を引き付ける要因」

今週は、私の銘柄選択に対する基本的な考え方を皆さんにお伝えしたいと思います。

この考え方はあくまでも一つのアイデアであり、絶対的なものではありません。

皆さんが銘柄選択を行う時に、一つのヒントになれば幸いです。

～投資資金を引き付ける要因～

米国株式市場の時価総額は、世界最大であり、日本の株式市場の時価総額のおよそ10倍の規模となっています。その米国市場での時価総額第一位の銘柄は、AI向け半導体を手掛ける「エヌビディア (NVIDIA)」です。時価総額は7/18日引け値で4.2兆ドル (邦貨換算：約608兆円) となっており、この数字はなんと昨年度の日本の名目GDP (617兆円) とほぼ同じ金額です。何故これだけ米国株式市場に投資資金が集まるのでしょうか？成長株へ投資資金が集中していることは分かりますが、それ以外の従来型の企業も時価総額が巨大となっています。投資資金を引き付ける要因を考えることは、銘柄選択を考える上でのヒントになると考えます。

～投資を引き付ける要因～

投資を引き付ける第一の要因は、マーケット (販売先など市場) の照準を世界全体に向けていることです。米国企業の売り上げや利益が巨額になるのは、マーケットを米国のみならず世界全体としているからです。また、マーケットを米国に限るのではなく、世界全体とすることで米国景気の影響を引き下げることにもなり、企業業績は安定します。第二の要因は、営業利益率などの利益マージンが高い製品やサービスを提供できていることです。世界の投資家は投資効率を高くしていくことを常に考えているため、企業の利益マージンが年々上昇し、高水準を維持できる企業への投資を積極的に行います。第三の要因は、市場シェアが高く、存在感のある企業は世界の投資家の目にとまり、その企業への関心を高める効果があります。投資家にとって、投資すべき企業かどうかを考える「きっかけ」になります。

～日本株選択のヒント～

私は日本株を選択する際には、こういった投資資金を引き付ける要因を考えるようにしています。つまり、企業が世界のマーケットを考えているか、海外市場でのシェア争いを考えているか、利益マージンの向上を考えているか、また海外投資家からの投資に耐えられる流動性があるかなどを考えて投資を行うようにしています。昨今、日本のグロース銘柄の出遅れが注目されていますが、株価の割安感や出遅れ感だけでなく、世界マーケットでの売り上げ拡大、利益率向上を強く意識した経営を行うことが必要であると考えます。その動きを重ねることで、日本のグロース銘柄は真の成長企業となるでしょう。多くの真の成長企業が育成されることを願っています。

8/2 ウイークリーレターはお休みとさせていただきます。8/11号をお楽しみにお待ちください。